

## 27年度県外視察研修報告

岡谷市立神明小学校 大熊 望

<日本生活科・総合的学習学会 福岡大会参加報告>

- 1 視察期日 6月19日～20日
- 2 視察場所 福岡教育大学附属福岡小学校
- 3 研修報告

### (1) 研修の概要

日本生活科・総合的学習教育学会の全国大会での公開授業の参観や全国の会員の先生方の実践発表や研究発表などから、生活科・総合学習での子どもの育ちや教師のあり方を見つめ直し、今後の教育実践の改善をはかっていく。

### (2) 研修から感じたこと

#### ①ゲストティーチャー（地域講師）との連携について

公開授業「おおきなあれ！わたしのひまわり」では、地域の公園で園芸に携わっている方々が班ごと（4人）に一人ずつつき、活動のはじめから定期的に学校にきていただいている。継続的なかかわりを持ち続けてきているので「〇〇さん」と呼び合える親しい関係が築きあげられている様子が伝わってきた。ゲストティーチャーの方は子どものつぶやきに頷いたり、子どもの声に寄り添って答えたりしてくださっている様子から、教えるための存在としているのではなく一緒にひまわりを見つめる存在としていてくださるよう感じた。

今日盛んに求められている学習者中心型の授業と、自然や歴史、文化等を地域の方に教えていただく授業との間にギャップを感じてしまうところがあるが、子どもの求めにより添いながら共にいる教師、共にいる地域の〇〇さんという日頃からの関係づくり（事前打ち合わせや連携など）がみえた。

#### ②地域素材の教材化

授業研究会では、1年生でよく生活科の題材になる「あさがお」の持つ価値と「ひまわり」の価値について比較検討された。本学校では、地域プロジェクトとしてひまわりの活動があるということで「わたしのひまわりとしてかかわる」ということだけでなく人との出会い、つながりがあるということで「ひまわり」が題材となっていた。1年生だから〇〇と活動が決めだされていくのではなく、比較や様々な視点から検討される中で題材が決められていくことの大切さをあらためて感じる。

また、自由研究発表では、私自身の実践（「わたしたちの横河川」）を発表することを通して、「川」という材の持つ価値から地域の「川」と思い切り全身でかかわることから様々な活動が広がり深まっていくことを助言者の先生からご指導いただいた。上記①にもかかわってくるが、子どもたちの必要感と、人材を含めた地域素材をいかに融合してカリキュラムをデザインしていけばいいのかを今後も考えていきたいと思う。

### (3) 研修を通して

公開授業の指導者の吉田豊香先生（鎌倉女子大学）から「固い教師がいる」というお話があった。子どもは目の前のものからたくさん感じているのに、子どもに教えたいことがたくさんある先生がいるということだった。また、自由研究発表のコメンテーターの先生からも「頭で考えすぎると先生の体が固くなってしまう」というお話があった。子どもの姿から活動の可能性を思い描きながら、子どもが見つめているものに寄り添い、「教師が教える」のではなく「子どもの学び」となるための私自身の役目を考えていきたい。